# 令和５年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第８号
## （１０月の発生予想）

令和５年１０月２日

| 【作物名】<br>病害虫名 | 予報内容<br>発 生 量：平年比<br>発生程度：<br>発生時期：平年比 | 予報の根拠 |
|---|---|---|

【夏秋きゅうり】

| | | |
|---|---|---|
| べと病 | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（発病葉率１～25%） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）降水量はほぼ平年並み（±）と予想されている。 |
| うどんこ病 | 量：少ない<br>程度：少発生<br>（発病葉率1～25%） | ①　９月下旬の発生量は平年比少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）降水量はほぼ平年並み（±）と予想されている。 |
| 褐斑病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病葉率１～５%） | ①　９月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| コナジラミ類 | 量：並<br>程度：少発生<br>（成虫寄生葉率<br>１～30%） | ①　９月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| アザミウマ類 | 量：やや少<br>程度：少発生<br>（寄生葉率１～５%） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| ハモグリバエ類 | 量：並<br>程度：少発生<br>（被害株率１～25%） | ①　９月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| ﾜﾀﾍﾘｸﾛﾉﾒｲｶﾞ<br>（ウリノメイガ） | 量：並<br>程度：少発生<br>（寄生株率１～20%） | ①　９月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |

【秋冬だいこん】

| | | |
|---|---|---|
| べと病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病度１～15） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（－）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |
| 黒斑細菌病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病度１～15） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |
| 白さび病 | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（発病株率１～20%） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（－）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |
| アブラムシ類 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発生程度指数１～50） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |

| 【作物名】<br>病害虫名 | 予報内容<br>発 生 量：平年比<br>発生程度：<br>発生時期：平年比 | 予報の根拠 |
|---|---|---|

【秋冬だいこん】

| | | |
|---|---|---|
| コナガ | 量：並<br>程度：少発生<br>（寄生株率１～10%） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年並。（±）<br>②　フェロモントラップの誘殺数は魚沼地域で多く、新潟地域で並～やや少ない。（±）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |

【秋冬ねぎ】

| | | |
|---|---|---|
| さび病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病度１～５） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（－）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |
| 黒斑病・葉枯病 | 量：やや多い<br>程度：少発生<br>（発病度１～20） | ①　９月下旬の発生量は平年比やや多い。（＋）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| 軟腐病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病株率１～５%） | ①　９月下旬の発生量は未確認で平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |
| ネギハモグリバエ | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（被害度１～10） | ①　９月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| ネギアザミウマ | 量：並<br>程度：多発生<br>（被害度 21～30） | ①　９月下旬の被害発生量は平年比やや少ないが、甚発生のほ場も見られる。（－～±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>・収穫が近く発生が多い場合は、収穫 30 日前頃から７～10 日間隔で３～４回薬剤散布する。なお、薬剤選定の際は使用基準の収穫前日数に注意する。 | |
| シロイチモジヨトウ | 量：やや多い<br>程度：中発生<br>（被害株率 11～20%） | ①　９月下旬の被害発生量は平年比やや多い。（＋）<br>②　フェロモントラップ誘殺数は平年並～やや多い。（±～＋）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |

【その他】

| | | |
|---|---|---|
| 【野菜・花き類全般】<br>オオタバコガ | 量：多い | ①　フェロモントラップの誘殺数は平年比多い。（＋）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。 |
| 【果樹・野菜・花き類全般】<br>ハスモンヨトウ | 量：多い | ①　フェロモントラップの誘殺数は平年比多い。（＋）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| 【防除上の留意事項】<br>ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウの防除対策については、９月 14 日付け注意報第１号（ハスモンヨトウの多発生に注意）及び９月 13 日付け速報第 10 号（オオタバコガ、シロイチモジヨトウの誘殺数急増）を参照のこと。 | | |

～　防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください　～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
注２：「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～　農薬は適正に使用しましょう　～

○　農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
○　使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
○　農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
○　農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
○　水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課
電　話：0258-35-0867
ＦＡＸ：0258-35-7445
https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/

【参考】北陸地方　１か月予報（９月 30 日から 10 月 29 日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和５年９月 28 日発表）

＜予想される向こう１か月の天候＞

暖かい空気に覆われやすい時期があるため、向こう１か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

２週目の気温は平年並の見込みです。

週別の気温は、１週目は、高い確率５０％です。

２週目は、平年並または低い確率ともに４０％です。

３～４週目は、高い確率５０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

| | 低い（少ない） | 平年並 | 高い（多い） |
|---|---|---|---|
| 気　　温 | １０ | ３０ | ６０ |
| 降 水 量 | ３０ | ４０ | ３０ |
| 日照時間 | ３０ | ４０ | ３０ |

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

| | 低い | 平年並 | 高い |
|---|---|---|---|
| １週目　（　９月３０日～１０月　６日） | １０ | １０ | ８０ |
| ２週目　（１０月　７日～１０月１３日） | ２０ | ５０ | ３０ |
| ３～４週目（１０月１４日～１０月２７日） | ２０ | ４０ | ４０ |